

ABA J 国際稀観本フェア2020

# 一誠堂書店 和本出品目録

令和二年二月



## ABA J 国際稀観本フェア 2020

会期

2020年3月20日(金・祝) 12時~19時  
21日(土) 10時~18時  
22日(日) 10時~16時

会場

東京交通会館展示会場12階  
カトリアサロンA・B / 出品Booth No.12

## ご挨拶

日頃より格別のご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。

さてこのたび、来たる3月20・21・22日に有楽町の東京交通会館に於いて開催されるABAJ(日本古書籍商協会)「国際稀覯本フェア2020」の弊社和本题目録を作製いたしました。

どうぞご通覧の上、お目に留まる品がございましたら何卒ご注文下さいますようお願い申し上げます。

尚、この目録掲載品以外にも洋書、美術書など内外の古書・稀覯本を多数展示即売いたします。

皆様のご来会を心よりお待ちしております。

令和二年二月

一誠堂書店  
酒井 健彦

## ご注文について

- 価格はすべて本体価格です。誠に恐縮ですが表示価格に別途10%の消費税をお預かりさせていただきます。
- ご注文はお申し込み順にお受けいたします。お早めに弊社へお寄せ下さい。

電話	03-3292-0072
FAX	03-3292-0076 (店舗2階直通)
Eメール	wahon@isseido-books.co.jp (和本部直通アドレス)

- お品物は当フェア規定の関係上、原則として会場でのお渡し、もしくは会期終了後の発送とさせていただきます。何卒ご諒承のほどお願い申し上げます。
- 会場手狭のため展示できない品もございます。ご覧になりたい品がございましたらあらかじめお申し付けくだされば幸いです。
- 会期終了後もご注文をお受けいたします。ご遠慮なくお問い合わせ下さい。
- 初めてのお取引となるお客様には前金にてご注文を賜る場合がございます。
- お支払いはご来会の際、またはご送金(郵便振替・各銀行口座振込)にて承ります。ご注文の際にいずれかお申し越し下さい。

口座名義:合名会社 一誠堂書店 代表社員 酒井健彦  
メ)イツセイドウシヨテン サカイ タケヒコ

みずほ銀行 九段支店 (当座預金)0100576  
三菱UFJ銀行 神保町支店 (当座預金)9020985  
三井住友銀行 神田支店 (当座預金)203474  
郵便振替 00150-2-25281

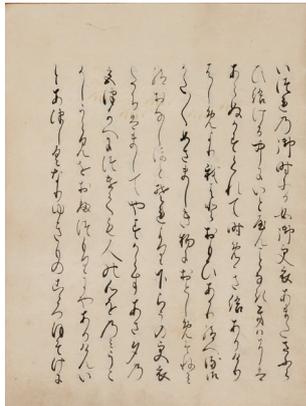
当日会場弊社ブースにおきましても、VISA又はMastercardのいずれかのクレジットカードがご利用いただけます。

【小特集 源氏物語】

1 源氏物語

五四帖 二、八〇〇、〇〇〇円

江戸前中期写 塗箱付 美  
帖の大きさ二三・八×一七・八糎。梔子色の緞子表紙中央に、巻名を記した金泥下絵入書題簽を付す。本文料紙は一部に金泥下絵を施した斐紙。奥書はない。保存ほほ良いが、三帖に少虫食、又数帖の表紙に少虫穴有。金字で巻名を記した引出し六段付きの塗筆筒に収めた美しいセットである。

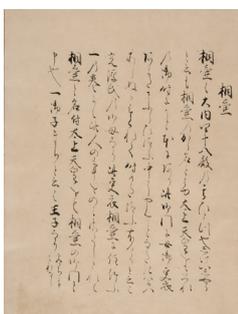


1

2 源氏大鏡

寛文元（1661）年写

二四・一×一八・四糎、綴葉装（綴じ外れ有）。媚茶色表紙中央に紺紙銀字の元題簽「源氏大鏡 上（中・下）」付。見返しは薄墨にて蔓草の下絵を施した金紙。本文料紙斐紙、每半葉十行書き。石田穰二旧蔵本で、氏の著した古典文庫『源氏大鏡〔訂正版〕』の底本。「葉堂文庫章」（所用者不明）、他一顆の旧蔵朱印有。



2



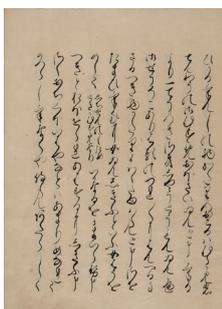
3 三帖源氏

三帖 三〇〇、〇〇〇円

源氏大鏡 江戸前期写 塗箱付  
二三・八×一六・九糎、綴葉装（一帖綴じ外れ有）。黄土色緞子表紙中央に金泥雲霞模様下絵入の元題簽「三帖源氏 上（中・下）」付。見返し金紙。本文料紙斐紙、每半葉十行書き。前掲書と同じく石田氏旧蔵、古典文庫にて校合に用いた本か。「部門／国文／函数／番号／矢野蔵書」（所用者不明）の旧蔵朱印有。



3



三帖 二五〇、〇〇〇円

## 4 源氏大鏡

三冊 四〇〇、〇〇〇円

江戸前中期写 一部少虫食有

二六・九×一九・三糶、袋綴。翡翠色元表紙（少虫食有）中央に金泥雲霞模様下絵入の元題簽「源氏大鏡上（中・下）」付。本文は薄手の上質楮紙。各巻頭に「光源氏大しやう」「光源氏大鏡 すまより藤のうらにはにいたる」「光源氏大鏡 わかなよりうち十てうにいたる……」の内題があり、これも石田氏旧蔵。大振りの善本。

## 5 源氏小鏡

二帖 三八〇、〇〇〇円

室町末江戸初期写

本の大きさ二九・五×一九糶、綴葉装。縦縞模様入絹表紙（少虫食・擦れ有）に「源氏小鏡 上（中・下）」の元題簽付。見返しは金銀砂子箔散らし料紙。本文斐楮交漉料紙、每半葉に大字にて九行書き。上巻に桐壺より真木柱、下巻に梅枝より夢浮橋までを収める。本文と同筆の朱書入有。この『源氏小鏡』は南北朝頃成立した源氏物語の梗概書。本書は和歌を百二十一首収める。本文薄い染み汚れ、小口に少傷み有。

## 6 源氏小鏡

二冊 三五〇、〇〇〇円

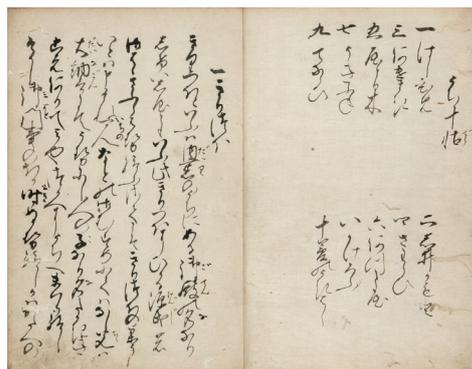
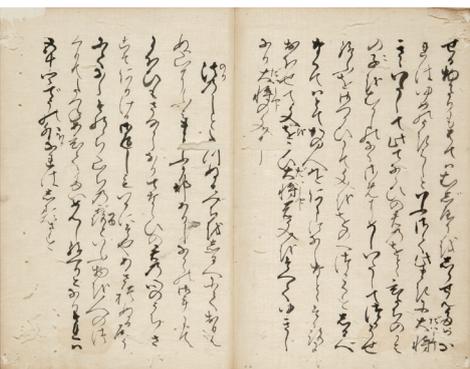
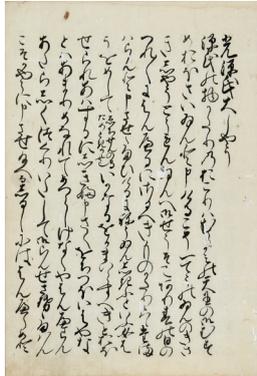
江戸初期写 少虫食有

本の大きさ二二・九×一六糶、袋綴。茶色表紙（少虫食有）付、題簽なし。内題「源氏（の）こかみ」。本文料紙楮紙、每半葉八行書き。上巻に桐壺より乙女、下巻に玉蔓より夢浮橋までを収める。本書は和歌を百六首収める。

5



4



6

## 7 源氏小鏡

江戸前中期写 桐箱入

本の大きさ二三・三×一七・三糶、綴葉装。金箔砂子散らし金泥下絵入紺表紙（少虫穴）中央に、これも金砂子散らし金泥下絵入翡翠色料紙を用いた元題簽「源氏小鏡 上（中・下）」を貼付し、見返しに空刷模様入の金紙を用いた上装本。本文料紙斐紙、每半葉十行書き。上巻に桐壺より薄雲、中巻に乙女より匂宮、下巻に宇治十帖（橋姫より夢浮橋）までを収める。本書は和歌を百三十五首収める。

三帖 二〇〇、〇〇〇円

## 9 花鳥余情

源氏物語注釈 一条兼良著 江戸初前期写 虫食有 三十巻

二七・八×二〇・九糶の大本。代赭色元表紙付、題簽なし。本文薄手の上質楮紙。最終巻末に一条兼良の奥書「文明四年龍集壬辰除月上澣桃華居士七十歳誌焉」があり、本書は初稿本系統と思われる。大振りの善本であるが、惜しくも所々に虫食がある。古い桐箱入。

一五冊 一、六〇〇、〇〇〇円

## 8 覚性院抄第二帚木

源氏物語聞書 覚勝院著 江戸前期写 中西信慶自筆か 岡田眞旧蔵

二七・三×二〇・四糶の大本、翡翠色表紙。「帚木 覚性院抄第二」の書題簽に「信慶」の朱印が捺されており、見返しに貼付された昭和十四年四月付の岡田眞の墨書附箋に「中西信慶自筆タルノ証拠……」の考察がある。本文料紙は上質の楮紙、墨付八十丁。奥書なし。一部僅か虫食あるも保存ほほ良。

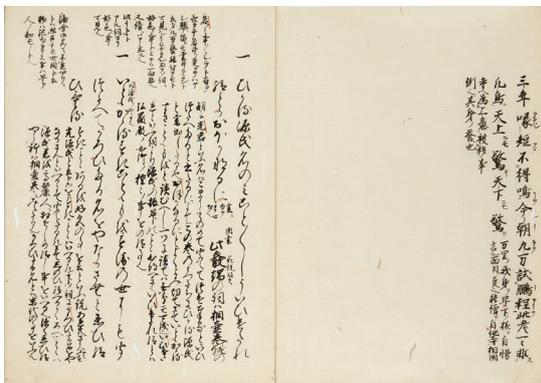
一冊 二〇〇、〇〇〇円



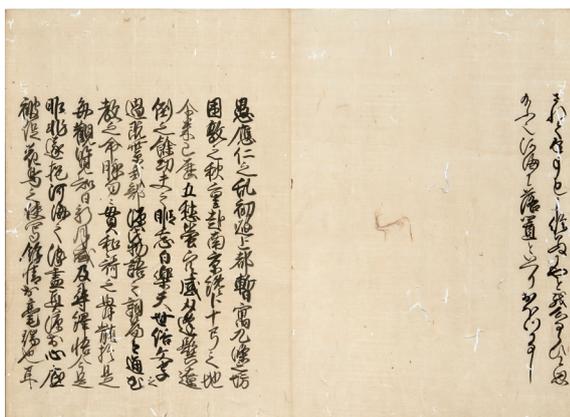
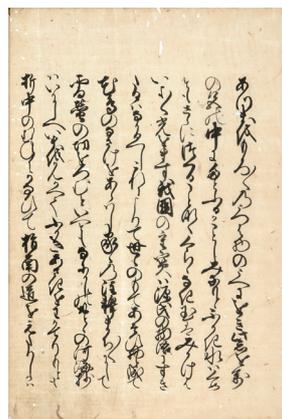
7



8



9



## 10 〔源氏雲隠抄〕

二冊 四五、〇〇〇円

〔浅井了意〕著 江戸後期写 一部少虫食有

美濃判。白茶色表紙（少虫食有）中央に「源氏かき本 上（下）」と墨書有。「雲隠六帖」は、紫式部ではない人物により創られた源氏物語の続編として知られ、光源氏の出家と死を語る「雲隠」と、薫・匂宮・浮舟等の後日譚をつづる「巢守」「桜人」「法の師」「雲雀子」「八橋」よりなる。本書はその本文を下巻に、注釈を上巻に収める。「仁賀保記久徴館蔵書」「若川文庫」「原之印」等数類旧蔵朱印有。

## 12 雑本 源氏物語

二八冊 三〇〇、〇〇〇円

江戸中期刊 豆本 絵入 保存良

本の大きさ六・九×四・八糎。元の藍色表紙中央に紅色元題簽（二枚欠）付。五十四帖（本文ではなく梗概を記す。二帖一冊五丁）に大意・目録の一冊を加えた計二十八冊本。「源氏物語 全廿八巻」の元題簽付の元塗箱入。

## 13 源氏物語かるた

一組 五八〇、〇〇〇円

江戸中後期作 読札・取札各五十四枚揃 桐箱入

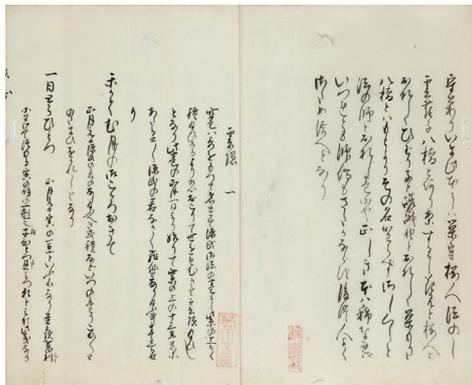
札の大きさ七・六×五・三糎。読札は墨刷の源氏香図に一色のみの筆彩色を施し（「桐壺」のみ墨刷の桐花図に三色の筆彩）巻名と上の句を墨書、取札は各巻の場面を描いた一枚ずつ異なる墨刷下絵に簡易な筆彩色を施し下の句を墨書したもので、読札取札共に表面上部に銀砂子を散らし裏一面および表面の四周縁取りは金泥塗り（ヤケ）。縁にわずかな劣化はみられるも保存ほほ良し。近年市場に出ること稀。

## 11 源氏爪印

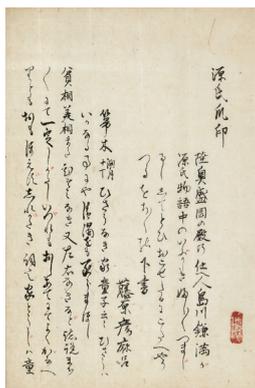
一冊 三〇、〇〇〇円

齋藤彦麻呂著 江戸末頃写

美濃判。元の水色表紙に「源氏物語爪印 蘆仮庵」と墨書。本文墨付全二八丁、朱点書入有。「部門／国文／函数／番号／矢野蔵書」（所用者不明）、「穰」（石田穰二）の旧蔵朱印有。



10



11



12



13

14 うつほものかたり

一冊 四、〇〇〇、〇〇〇円

元和寛永中刊 古活字版 俊蔭巻 二巻合本 漢字平仮名交じり  
寶玲文庫旧蔵

大きさ二七・二×一七・七糎。改装古い栗皮表紙(補修有、見返し紙も後補)、  
題簽なし。本文每半葉十一行。上巻四十六丁、下巻三十八丁を一冊に合本。  
川瀬一馬『増補古活字版の研究』における第一種(ロ)本。本文ごくわずかな  
虫食補修あるのみで保存良い。「寶玲文庫」(フランク・ホーレー)の旧蔵朱印有。

15 清少納言枕草子

五帖 四五〇、〇〇〇円

江戸前中期写 チェンバレン旧蔵

二五・二×一八・〇糎。綴葉装、金泥下絵入の紺表紙にこれも金泥下絵入の  
題簽「清少納言枕草子」付。本文料紙斐紙、每半葉一〇行書き。「英王堂蔵書」  
(バジル・ホール・チェンバレン)、「部門/国文/函数/番号/矢野蔵書」(所用  
者不明)の旧蔵朱印有。

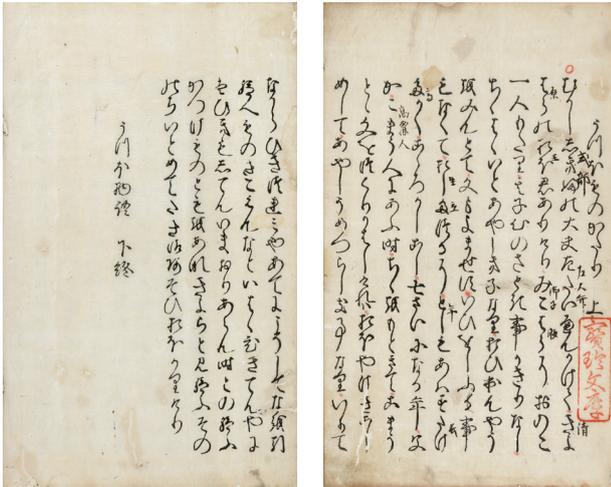
16 平家物語

一二冊 四、〇〇〇、〇〇〇円

慶長頃刊 古活字版 下村本 虫損・一部傷み有

本の大きさ二七・三×二〇・九糎。改装古い栗皮表紙に薄藍料紙の書題簽「平  
家物語(巻数)」。字高、二二・〇糎。半葉、十行。漢字平仮名交じり。刊記、  
「下村時房刊之」。

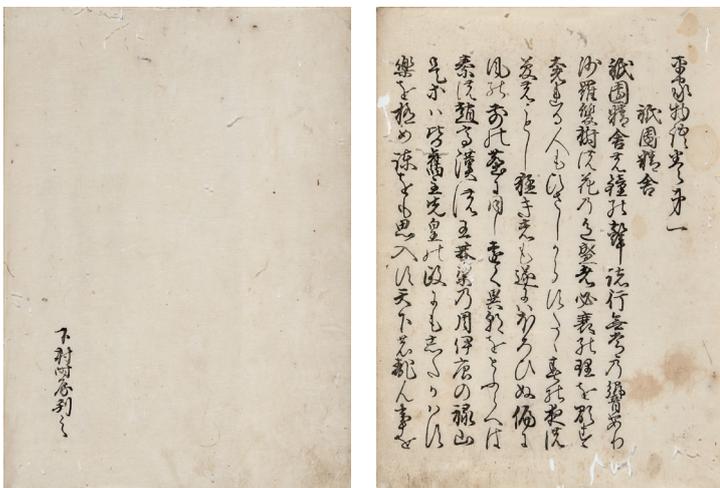
一方流本。中院本『平家物語』と共に平仮名古活字版で最も著名なもの。や  
や大振りで流麗な版式は光悦本を連想させるが、むしろそれより先行するもの  
とも云われる。大型で堂々とした善本であるが、惜しくも全体に亘り虫損、ま  
た二冊に小口の馬喰がある。



14



15

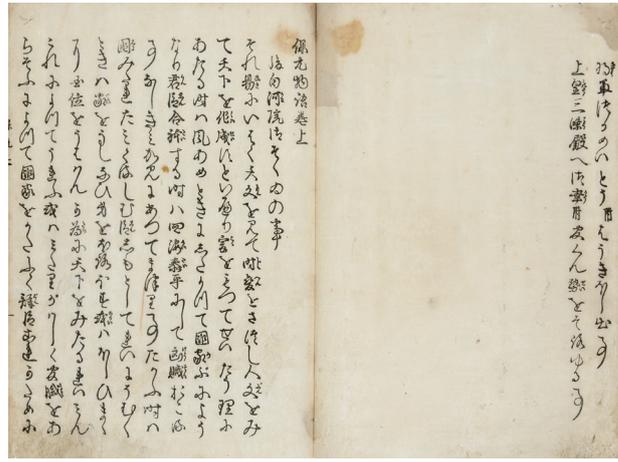


16

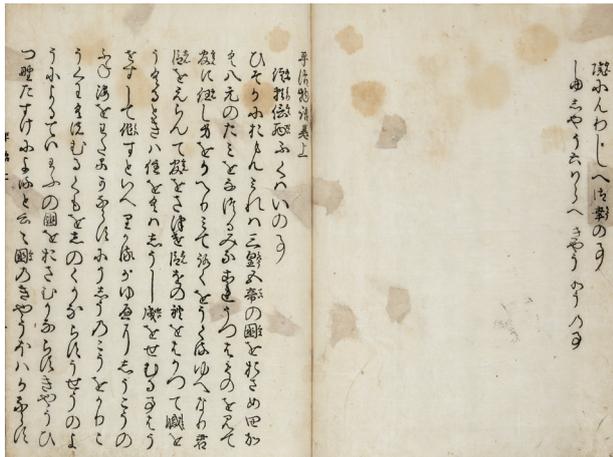
# 17 保元平治物語

六冊 六、〇〇〇、〇〇〇円

寛永中刊 古活字版 第八種本 漢字平仮名交じり 一部少染み  
 保元物語、平治物語各三巻三冊。大きき二七・五×一九・八糎。雷紋繫ぎ地に蓮唐草模様様の空刷が入った古い丹表紙に、書名記載のない題簽紙付。每半葉十二行。川瀬一馬『増補古活字版の研究』における第八種本。本文に振仮名付活字を多く用いている。各巻頭に「念終始典于學」（所用者不明）の旧蔵朱印有。



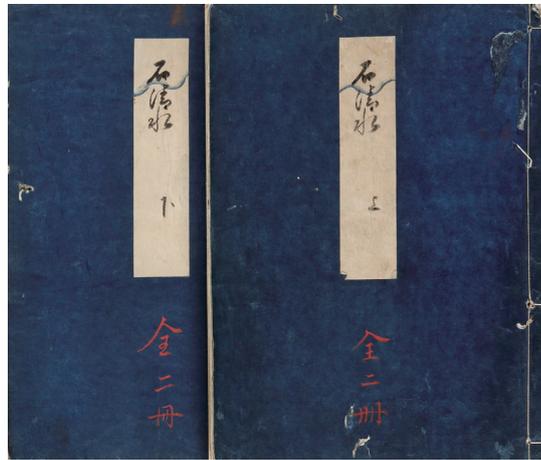
17



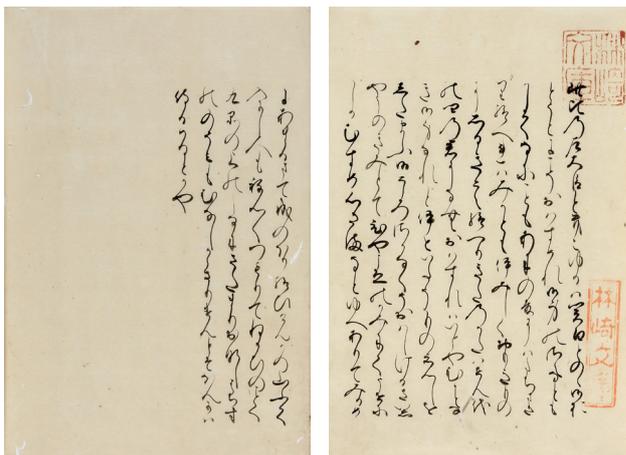
# 18 石清水物語

二冊 三、二〇〇、〇〇〇円

録倉中期成立の擬古物語 江戸前期写 上本  
 本の大きき二七×一九糎、藍色表紙の中央に「石清水 上(下)」と記した雲紙の題簽を付す。原装であろう。その下に「全二冊」と朱筆で打付書きがある。本文袋綴、墨付上巻二二六丁、下巻二二五丁、每半葉十行書き、内題尾題ともになし。鳥の子系の料紙を用いたどしりとした上本である。各冊巻頭に林崎文庫の朱印二顆を捺す。



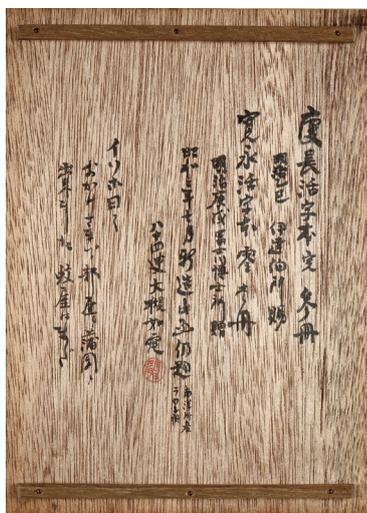
18



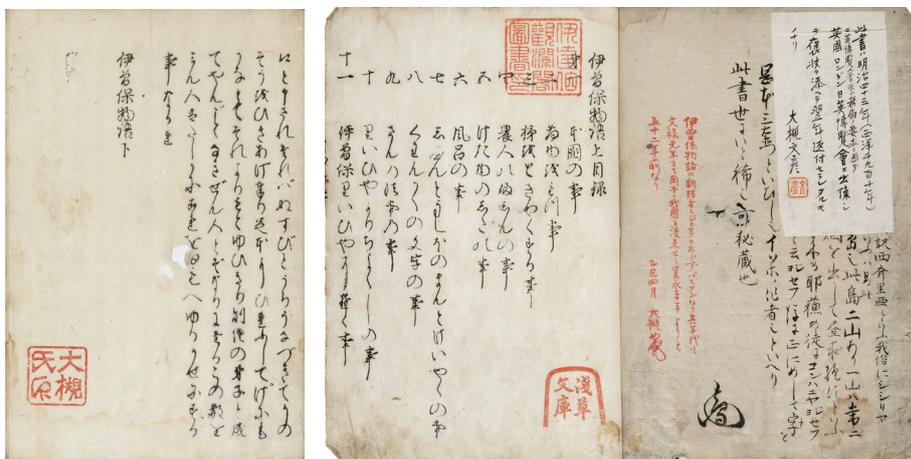
元和中刊・寛永十六（1639）年刊 古活字版

第二種完本三冊及び第六種下巻一冊 大槻家・安田文庫等旧蔵

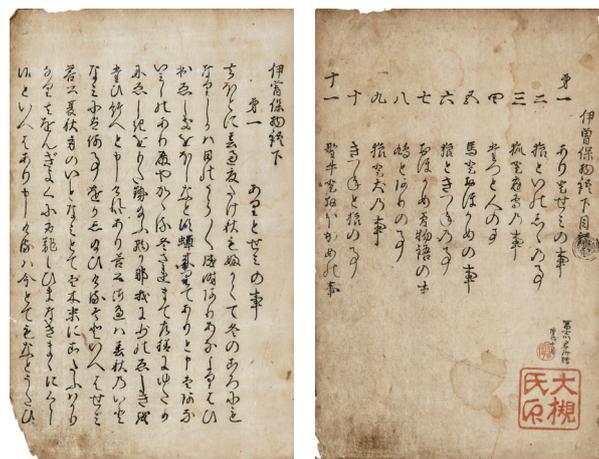
川瀬一馬『増補古活字版の研究』において「安田文庫／大槻氏舊蔵」と載る二本、一具として伝わる。箱蓋裏に「慶長活字本完三冊／明治乙巳伊達伯所賜／寛永活字本零壹冊／明治庚戌富士川博士所贈／昭和三年七月新造此函仍題 南洋所産ラワン樹／八十四叟大槻如電（電）朱印）／イソホ曰く／おかけさまで部屋と蒲団と／出来ました 蚊屋はまだ」の箱書、又第二種本上巻表見返しに「此書ハ明治四十三年（西洋千九百十年）／日英博覽會事務局ノ要求ニ因テ／英國ロンドン日英博覽會ニ出陳シ／テ衰状ヲ添ヘテ翌年返付セラレタルモノナリ 大槻文彦（文彦）朱印）の紙片貼付があり来歴を示す。第二種本三冊は、大きき二七・六×一九・二釵。元と思われる栗皮表紙（一部傷み）に朱の書名打付書き有。毎半葉十二行。本文折目切れ、一部に染み有。各巻頭に「伊達伯觀瀾閣圖書印」（仙台藩伊達家）および「浅草文庫」（大槻如電）、同末に「大槻氏印」（大槻家）の旧蔵朱印、又上巻表紙に「古活49」の安田文庫旧蔵札貼付有。第六種本下巻一冊は、大きき二六・七×一八・一釵。元と思われる栗皮表紙（小口少傷み）付、外題なし。毎半葉十二行。本文全体に薄い水染み、折目切れあり。巻頭に「大槻氏印」（大槻家）、一顆古い黒丸印、又表紙に「古活50」の安田文庫旧蔵札貼付有。



(箱蓋裏)



(第二種本)



(第六種本)

20 平仮名書き 太平記

四〇帖 二、六〇〇、〇〇〇円

22 〔むい〕

一冊 六八〇、〇〇〇円

江戸前期写 伝西洞院時慶筆

本の大きさ二三・五×一七糎。綴葉装。原装、濃緑色地に金糸で七宝繫ぎ紋様の裂表紙に金銀砂子を散らした書題簽「太平記第一（〜四十）」を付す。本文鳥の子料紙、每半葉九行書き。全巻に朱点朱引を施す。漢字を殆ど用いず平仮名で書写された特異な本文を持つ伝本である。西洞院時慶（寛永十六年没）の筆とした古筆了仲の極書きを有するが、それよりやや時代の降るものであろう。保存良く稀に見る美本である。

21 南総里見八犬伝

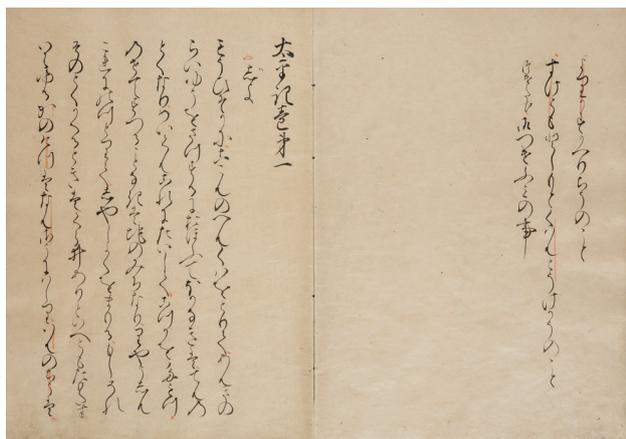
一〇六冊 四五〇、〇〇〇円

曲亭馬琴作 重信・英泉・貞秀画 明治刊 名山閣和泉屋吉兵衛版

薄墨刷口絵入 一部少虫食有

半紙本。犬絵模様を藍・緑の二色にて刷出した元表紙に元題簽を完備。本文一部に朱点書入有。「常松蔵書」（所用者不明）等旧蔵朱印有。

赤本 申正月吉日 本問や喜右衛門版 改装 存五丁 染み汚れ有  
 中本。後補朱表紙に書題簽付。柱題「むい」。本文存五丁。初丁表の扉絵上部隅に「新」「板」の文字、又左下部に「申正月吉日／本問や喜右衛門板」の刊記有。絵師名はない。  
 信心厚い「あづま日の出の介」がある日、身につけると姿が見えなくなる「かくれみの」「かくれかさ」を弁天より貰う。一方、これも有徳の長者「かなもり」は「あけのまえ」という一人娘にしかるべき婿を探していたところであった。蓑笠を付けた日の出の介が偶々入り込んだのがそのかなもりの屋敷で、娘を一目見るなり呆然とし図らずも蓑笠が脱げてしまう。盗人と思われ手代に取り押さえられるも、大黒が現れ出でてこれは福神の授けものだと告げる。  
 本文全体に亘りやや濃いめの染み、上部欄外に墨悪戯書き有。元表紙、巻末を欠くのが惜しまれる。



20



21



22

23 「千本さくら」

五冊 六二〇、〇〇〇円

25 大治三年 住吉社歌合

一巻 三〇〇、〇〇〇円

青本又は黄表紙 鳥居清経画〔安永頃〕刊

中本。元と思われる藁色表紙付、題簽欠。本文柱題「千本さくら（丁数）」、但し第一冊を除く四冊の末丁は「千本さくら 半二十」「千本さくら 半三十五」「千本さくら 半四十二」「千本さくら 半五廿五」と柱刻されている。内容は典拠とした歌舞伎『義経千本桜』のダイジェスト的なもので、巻頭巻末には芝居小屋前の描写にて「三五五」「門之助」「仲ぞう」等役者の名前が挙げられ、本文中には「此所大当り」などの文字も見える。当時の歌舞伎界とかわりのあった鳥居派の絵師清経ならではの作と言えようか。『日本古典籍総合データベース』に伝本二箇所のみ。下部に僅かな手擦れあるも虫食はなく、刷り保存共良い上本。元の刷題簽を欠くのが惜しまれる。「このぬしやさき」「おだん」（共に所用者不明）の旧蔵朱印有。

源頭仲判 藤原道経等詠 室町末江戸初期頃写 虫食多し

紙高二五・三糎。緞子表紙に模様刷入金紙見返し（共に擦れ虫食のため裏打済）付。本文楮の打紙、薄墨の天地横界入り。虫食が多く二度にわたって裏打を施した跡がある。「月述懐」より「菊寄祝」まで十番の歌合。西行による書写本が今に伝わるが、本書にもそのころの書風が感じられる。奥書はない。

24 名木二代鑑

三冊 二六〇、〇〇〇円

黄表紙 井上勝町作・画 寛政四年刊 泉市版 原装元題簽付 保存良

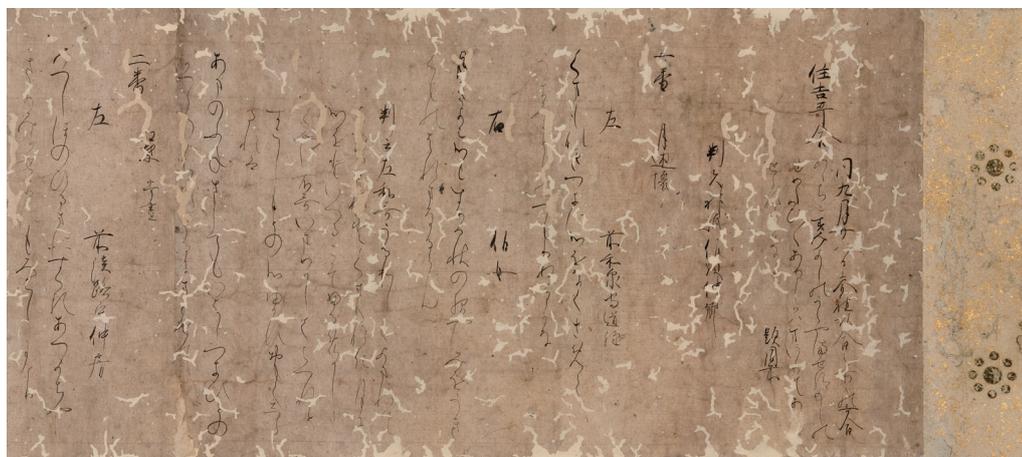
中本。元の黄色表紙に元の絵題簽完備。保存良い上本。



23



24



25

26 古今和歌集

二帖 四五〇、〇〇〇円

室町時代写 伝一条教房筆 綴じ外れ有

大きき二四・五×一七・二種。緑色の緞子表紙中央に「一條閑白教房公 今集全部之上(下)」の金紙書題簽付。見返しは金銀箔散らし料紙に秋草の筆彩絵入。本文料紙斐楮交漉紙、一部に僅か虫食有。なお真名序および奥書、署名等はない。一条教房は応永三十年生、長祿二年閑白、土佐一条家の租、文明十二年没。「岡部文庫」(所用者不明)の旧蔵朱印有。

28 賀茂翁家集原本

一冊 四、八〇〇、〇〇〇円

賀茂真淵自筆

本の大きき二二・七×一六・二種、半紙本、袋綴。薄鼠色漉返し表紙、中央に「賀茂翁家集原本」と打付書き。墨付六十五丁、真淵の緑色蔵書糸印有。帙には「賀茂翁家集 原本/村田春海/手澤本/信綱記」の題簽があり、佐佐木信綱の旧蔵にかかる。

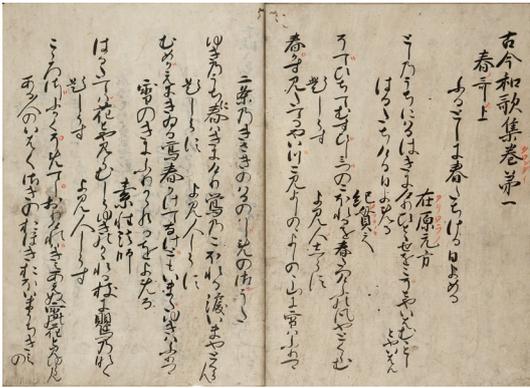
27 近衛信尹画賛幅

一幅 三八〇、〇〇〇円

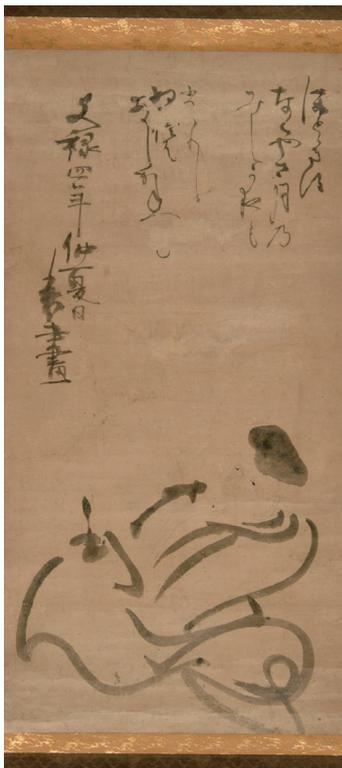
人麻呂像 近衛信尹筆 文祿四(1595) 年仲夏日 少傷み補修有

本紙の大きき七〇・八×三五・八種。「ほととぎす/なくやき月の/みしか夜も/ひとりし/ぬれば/あかしかねつも/文祿四年仲夏日 / (花押) 畫」。

本文は「集千足麻古登家亭時序」「真淵紀行」「西帰」「まきた永世のあるしするに」「高橋秀倉をいためる」「鎌倉の左大臣の家集をよみて書つ」「文と短哥一くさ」「かさねのいろあひ」の八作品。胡粉・墨・朱による抹消・補訂などの推敲の跡が随所に見られ、真淵研究における価値は極めて高い。

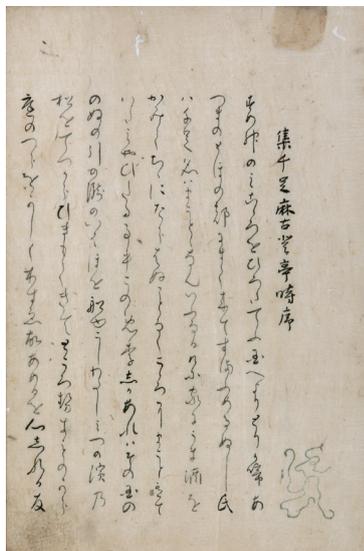
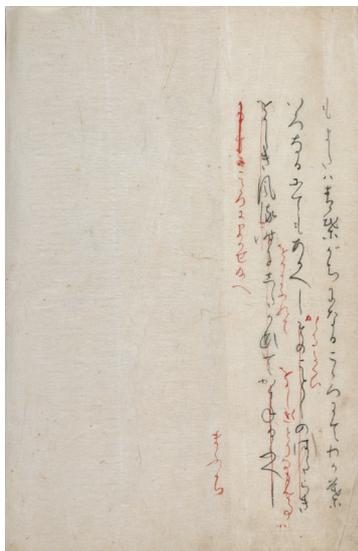


26



27

28



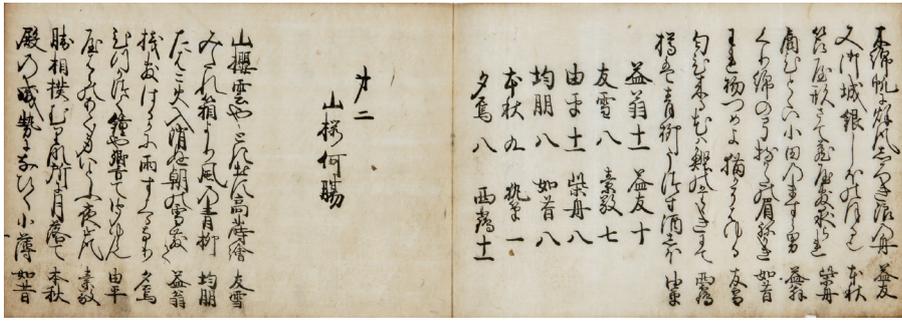
29 大坂檀林三日千句

一冊二、八〇〇、〇〇〇円

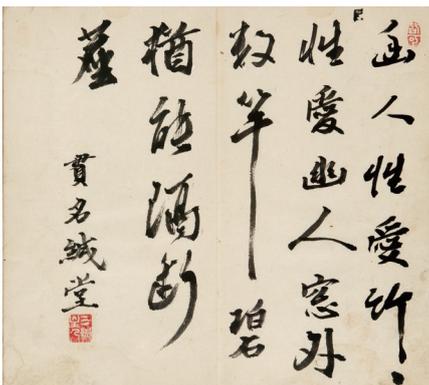
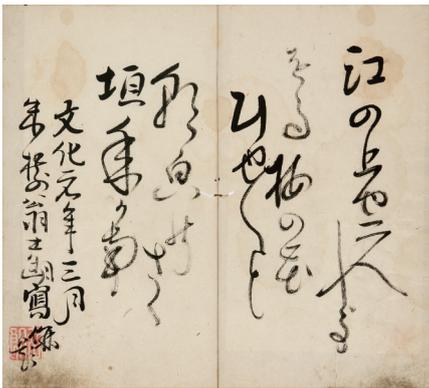
30 〔月雪〕

一冊三、八〇、〇〇〇円

桜千句 青木友雪編 西鶴等詠 延宝六（1678）年刊 寺田與平治版  
 美濃判二つ切りの横本（二三・五×一九・五糎）。元の藍色表紙（擦れ傷み有）  
 付、題簽ないが外題は「大坂檀林桜千句」と他本にある。本文保存ほほ良。  
 益翁・友雪・由平・均朋・本秋・夕鳥・益友・素敬・柴舟・如昔・西鶴の十  
 一人によって興行された「桜千句」および追加「渦桜」を収める。友雪序一丁  
 とも全四十二丁。伝本稀。



29



30

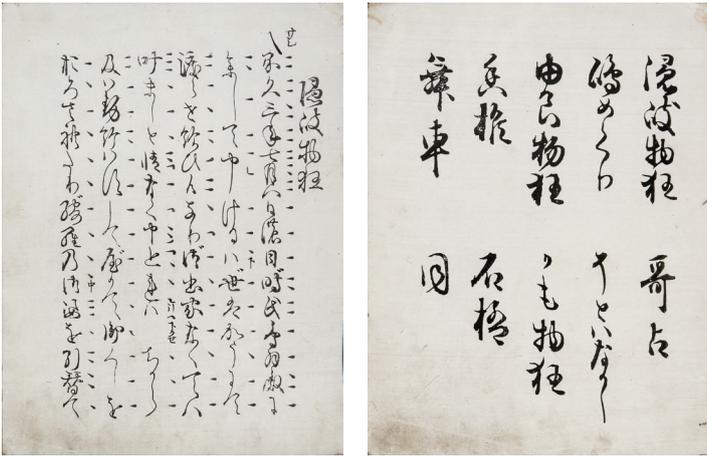
俳諧寄書集 土朗編 文化元（1804）年成 絵入  
 大きさ二七・三×一六・七糎、八十九丁、袋綴。外題なし。「朱樹」の朱印  
 ある扉「月雪」半丁、扉絵見開き一面につづき、末に「文化元年三月／朱樹  
 翁土朗写併題（朱印有）」と記す土朗自筆の二句見開き一面がある。続いて李  
 東を筆頭に羅城・岳輅・孔阜・卓池・椿堂・蕉雨・宇洋等、名古屋をはじめ  
 各地の門人ら約百三十人による寄書。  
 「井上土朗年譜稿」（『連歌俳諧研究』第九十一号）によると、享和四（文化元）  
 年二月六日から三月初旬まで土朗は関西旅行におもむいており、その記録とし  
 て同行した門人卓池による稿本『甲子紀行』が知られている。本書はその旅の  
 途において土朗自らが各人より歌句を受けたものと推測され、おのおのの署名  
 落款があるほか、淡彩色入の絵も見受けられる。特筆すべきは「貫名絨堂」（三  
 絨主人）の朱印有）の落款ある漢詩があり、当時二十代半ばの貫名絨翁による  
 ものであろうか。土朗とのかかわりを示す新出の資料としても注目される。

31 「久世舞」

一帖 八、五〇〇、〇〇〇円

元和寛永頃刊 古活字版 嵯峨本 三十曲本 伝本稀  
 大きさ二三・七×一七・九糎。江戸期の緞子表紙付。外題・内題共ないが、東洋文庫蔵の同本元表紙には「久世舞」の元題簽があると云う。具引白色料紙。光悦様の堂々と美しい活字を用いた目録二丁につき、每半葉七行、一行十五字の本文六十丁。一部上部欄外に染み有。巻頭遊び紙に小丸朱印「山路」あるも所用者不明。

この嵯峨本『久世舞』には当該書の如く三十曲を収めた「三十曲本」と、每半葉八行、一行十五字の本文を有し三十六曲を収めた「三十六曲本」の二種が伝わる。諸書に依れば両本は別活字でありその出版の先後は不明であるが、共に元和寛永頃の出版であろうとされている。いずれにせよ部分謡の出版物としては最古のものと考えられ、美しき、伝本の少なさと相まって価値は極めて高い。



31

32 光悦謡本をしほ

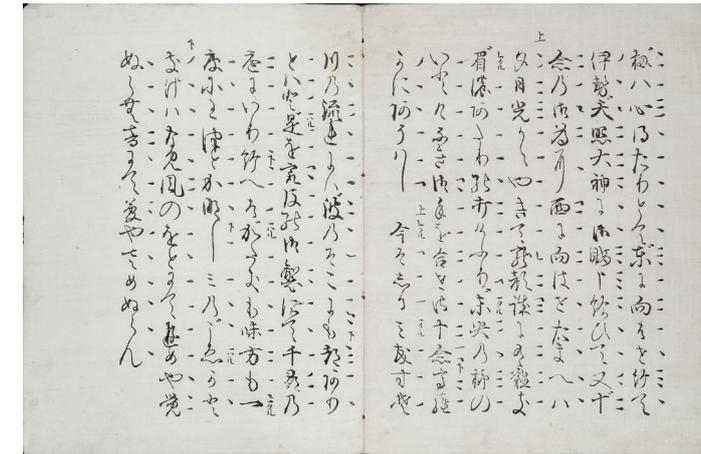
一帖 五三〇、〇〇〇円

慶長中刊 古活字版 特製本 後補書題簽付 戸川浜雄旧蔵  
 乱れ薄の雲母刷模様肌色表紙付、題簽は後補。綴葉装。本文雲母刷模様具引白色料紙。見返しに「残花書屋」の旧蔵朱印有。

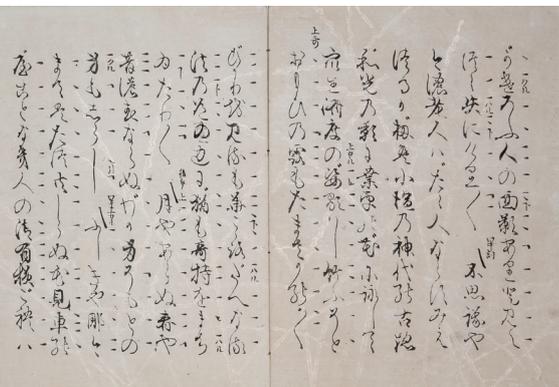
33 光悦謡本 夕かほ

一帖 四二〇、〇〇〇円

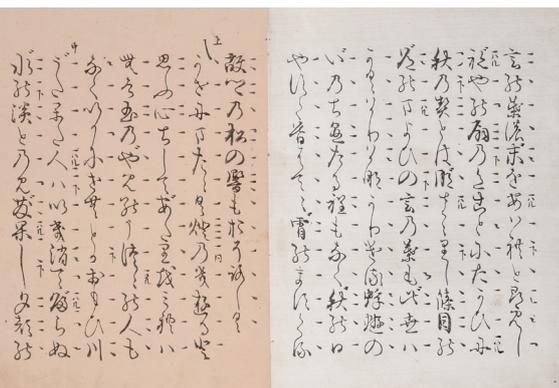
慶長中刊 古活字版 上製色替り本  
 梅が枝の雲母刷模様入の極薄水色表紙に元題簽(僅か擦れ傷み有)付。綴葉装。本文薄桃・黄・水色等の具引色替り料紙。



32



33



34 光悦謡本 鶺鴒 一帖 四〇〇、〇〇〇円

慶長中刊 古活字版 上製本 美本

飛び交う鶴紋の雲母刷模様入の薄水色表紙に元題簽付。綴葉装。本文具引白色料紙。

35 光悦謡本 舟弁慶 一帖 三六〇、〇〇〇円

慶長中刊 古活字版 上製本

藤水巴紋の雲母刷模様入の薄桃色表紙に元題簽付。綴葉装。本文具引白色料紙。

36 光悦謡本 軒端梅 一帖 三五〇、〇〇〇円

慶長中刊 古活字版 上製本

水草紋の雲母刷模様入の白色表紙（オモテ表紙に薄い水染み有）に元題簽付。綴葉装。本文具引白色料紙。

37 光悦謡本 華かたみ 一帖 三四〇、〇〇〇円

慶長中刊 古活字版 上製本

菱米印唐草紋の雲母刷模様入の白色表紙に元題簽付。綴葉装。本文具引白色料紙。保存ほほ良いが、本文の一部に後世の加点がある。

38 光悦謡本 景清 一帖 三四〇、〇〇〇円

慶長中刊 古活字版 上製本

菱米印唐草紋の雲母刷模様入の白色表紙に元題簽（僅か穴有）付。綴葉装。本文具引白色料紙。保存ほほ良いが、本文の一部に後世の加点がある。



34



35



36



37



38

39 義経記 三之巻

一冊 六八〇、〇〇〇円

古浄瑠璃六段本 江戸前期刊 うろこかたや新板  
初印本 絵入

二一・六×一五・七糎の半紙本。元の黄土色表紙に大型の子持杵元題簽付。柱題「義三ノ」、丁付「一」〜「十六」。挿絵見開き六図入。末に「右此本ハ太夫直傳之以正本を以令板行者也 うろこかたや／新板」の刊記有。保存ほぼ良。「石井國之」「國之藏」（石井国）の旧蔵朱印有。

40 義経記 初巻

一冊 四八〇、〇〇〇円

古浄瑠璃六段本 元禄二（1689）年刊 うろこかたや新板  
再印本 絵入

二一・七×一五・五糎の半紙本。元の白茶色表紙に「絵入 義経記 壹巻」の子持杵元題簽付。丁付「一」〜「七」、「八九」、「十」、「十一」、「十二」、「十三」〜「十六」。挿絵見開き四図入。末に「右此本者太夫直傳之以正本一字／一点無誤写之令板行者也／元禄二歳／巳ノ正月吉日 大傳馬三町目／うろこかたや新板」の刊記有。本書は前掲書の如き江戸前期刊の再印本と思われる。挿絵を二図省略した跡であろうか、版心の丁付に不自然な箇所が二丁ある。本文一部にやや染み、挿絵に少し朱の差し色がある。

41 曾我物語 きりかね

一冊 二二〇、〇〇〇円

古浄瑠璃六段本 江戸前期刊再印本か 絵入

二一・九×一五・六糎の半紙本。元と思われる灰色表紙（擦れ傷み有）に刷題簽「ゑ／入 曾我物語（巻数部分擦れ）」付。内題「きりかね」。本文十四丁半、うち挿絵見開き四図。柱題「そノ四」。刊記はない。「古浄瑠璃正本集二」にて翻刻されている前島春三氏蔵本と同版と思われる、万治寛文頃に刊行された初版の再印本かとされる。版心の丁付に不自然な箇所が二丁あり、再印に際し挿絵を二丁分除いた跡であろうか。本文数丁小口に傷みがあるも、本文にはかからない。



39



40



41



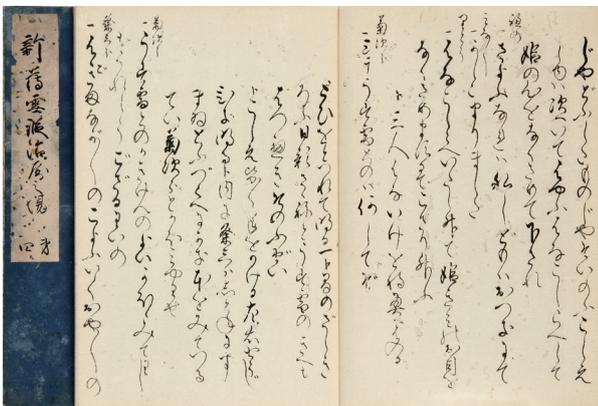
42 しゅっせおきなやつこ  
出世稚握虎

一冊 五〇〇、〇〇〇円

古浄瑠璃六段本 近藤清春画 江戸中期刊 通油町藤田開板 裏打補修有  
中本。鈍色表紙に絵題簽「未 出世やつこ」下「上」の墨書入ありを付すが、これは安永四年に刊行された黄表紙「出世やつこ」の下巻絵題簽を流用したものである。本文全十丁、每半葉小字十六行。裏打補修を施し、一部下部の傷み箇所丁寧な補写を加える。挿絵見開き三図、うち第二図中に「畫工近藤助五郎清春」の文字あり。末に「正月吉日 通油町藤田 開板」と刻されるも「藤田」なる書肆の詳細は不明。

43 新薄雪 其部屋形之場／鍛冶屋之場 二冊 一五〇、〇〇〇円

歌舞伎「新薄雪物語」台帳 江戸後期写 虫食裏打補修  
半紙本。藍色表紙に書題簽「新薄雪其部屋形之場」(虫食補修有)・「新薄雪鍛冶屋之場 第四」付。本文墨付三十二丁および五十二丁、ともに每半葉十行書き。歌舞伎「新薄雪物語」のうち、「園部邸(三人笑・合腹)」及び「鍛冶屋」の場面上演用台本(一般に台帳と呼ばれる)。「本舞台三間の間…」等の決まり文句で始まり、作者名や上演年はない。続いて台詞・ト書きが順次記される。台詞に配される役者名は三津五郎(幸崎伊賀守／五郎正宗)・団十郎(左衛門／団九郎)・菊次郎(お梅の方／おれん)・彦三郎(園部兵衛／吉助実は国俊)・糸三郎(薄雪)・現十郎(渋川藤馬)・松之助(籬)等。尚本文に書入はみられない。裏見返し紙に「此ぬし千世(よ)」の墨書があるも不詳。本書のような歌舞伎台帳は、その演出演技を追体験できる第一義的な資料として貴重である。惜しくも虫食が多く裏打補修済み。



43

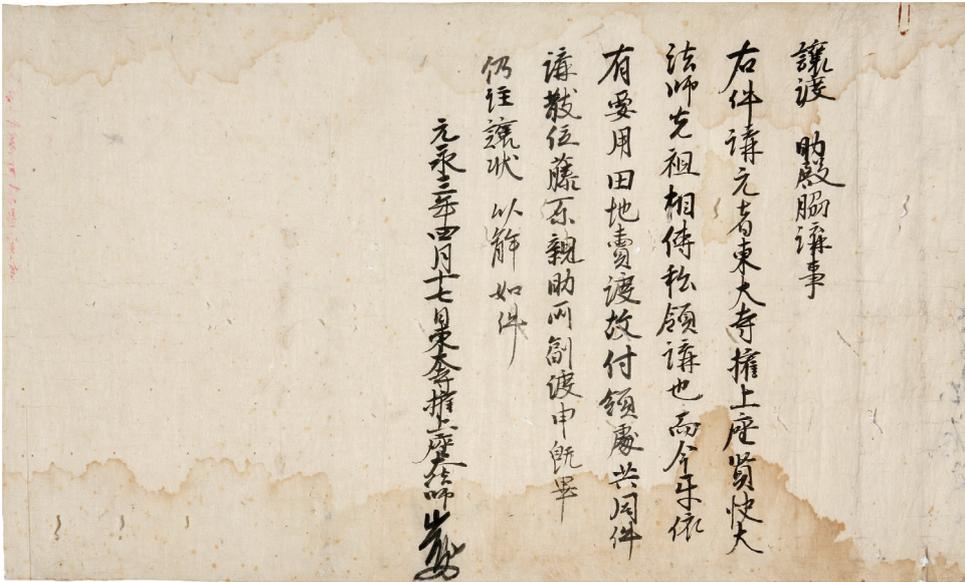


42

44 東大寺権上座賢快讓状

一枚 一、五〇〇、〇〇〇円

「讓渡 助殿脇講事」元永三（1120）年四月十七日付 花押有  
紙の大きさ三二・一×五四糎。天地に少水染み有。



44

45 聚分韻略

一冊 五、八〇〇、〇〇〇円

辞書 虎関師鍊編 享祿三（1530）年刊 日陽眞幸院版  
日向版 水染み有

本の大きさ二六・二×一八・三糎。改装古い栗皮表紙付、外題なし。本文四周単辺、有界、毎半葉十行。少虫食および折り目切れの補修済み。『聚分韻略』は国書として編まれた最初の韻字書で、巻末に徳治二年の跋があるがその後間もなく初版が出版されたものとされる。以後しばしば開版を重ね、応永以後は地方印刷文化開発の趨勢に乗じて各地で出版されるようになった。

本書は南九州の守護大名島津氏の所領日向国で享祿三（1530）年に開版された日向版。文明十八（1486）年刊薩摩版に基づく出版と思われる、平上去の三韻を三段に重ね並べた所謂「三重韻」の形式を取る。刊行後ほどなく、遅くとも室町末までに施されたと思われる古い書入を有し、各語の左脇に朱筆力ナにて唐音が、右脇・下部に墨筆力ナにて音訓が書き入れられており貴重である。「青谿書屋」（大島雅太郎）、他一顆旧蔵朱印有。塗箱入。

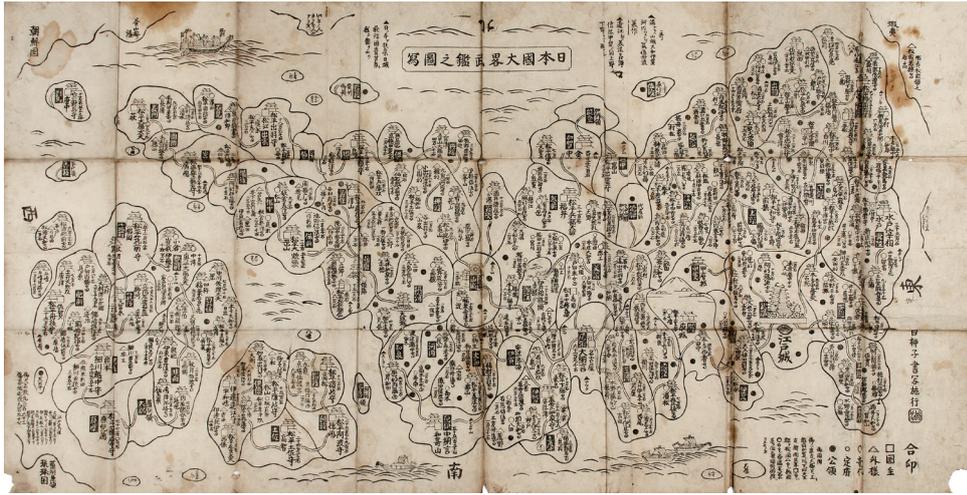


45



### 日本国大略武鑑之図写

一 舖 四八〇、〇〇〇円



46

日本国大略之図 白柳子書写施行 江戸中期刊 少染み傷み 大きき六〇・五×一一五・五種。藍色表紙一枚付、外題なし。行基図風の日本地図に、地名および「国主」「外様」「普代」「定府」「公領」各々の姓氏・石高を記す。近年市場に出ること稀であるが、惜しくも全体に亘り少染み汚れ、又折目部分に少傷みがある。

### 東海道分間絵図

一 帖 三〇〇、〇〇〇円



47

桑楊編 天明年間刊 折帖 淡彩刷入 仕掛入 紙帙付 帖の大きき一八・九×八・八種。黄土色の絹張表紙中央に書題簽付。巻頭に「汐のみちひ」の仕掛入。本文黄・水色の淡彩色刷入、加えて紅色手彩色有。刊記無いが、巻末の「江戸より京迄駄賃問屋附」の但し書きに「安永年中御改二付本書相改候得共当天明又々相改り候二付」とあり、天明年間の刊行と思われる。保存良。紺色の絹張を施した紙帙（元か）に「新／板 東海道分間繪圖」の元題簽を付す。一顆旧蔵朱印有。

### 有馬小鑑抄

一 冊 二〇〇、〇〇〇円

地誌（天和三（1683）年）刊 絵入 少虫食有 延宝六年に刊行された有馬地方の地誌『有馬名所鑑』全五巻のうち巻一・二のみを独立させ、天和三年に『有馬小鑑抄』の名で刊行されたもの。半紙本。「有馬小鑑抄 目録」一丁、「湯山方角図」半丁、「湯二入快気せしを見及し数々」半丁に続き本文（柱題「アリマ巻一 二（〜廿二終）」、「アリマ巻二 二（〜廿終）」）よりなる。本書は改装のため外題及び刊記を欠くも、古い渋引きの表紙には古活字版『竹齋』下巻（第二種本か）の刷ヤレを、表・裏各半丁ずつ裏張りに用いている。本文少虫食、薄い水染み、一部に少墨悪戯有。



48

# 49 武家はんしやう

二巻 四、八〇〇、〇〇〇円

奈良絵巻 極彩色

室町時代成立の御伽草子。内容は、文武両道の大切さを唐土および日本の歴史より例を引いて説き、源氏の繁栄を寿ぐもの。特に記紀神話の所謂「海幸山幸」の挿話にやや紙幅を割く。雲霞模様織の金欄表紙に、元と思われる書題簽「武家はんしやう 上(下)」を付す。見返し金紙。詞書部分は金砂子散らし料紙。挿絵は上巻・下巻各五図の計十図あり、上下に金砂子を蒔いた料紙に濃彩色を用いて描かれた美しいもの。江戸時代前期の初め頃に作成されたものと思われ、蓋表に「まきもの 二ちく／武家はんしやうの繪」の墨書ある同時代の桐箱を付す。

# 50 さくらも 一・二下

二帖 七〇〇、〇〇〇円

奈良絵本 江戸前期写 八帖の内か 極彩色入

大きさ二三・六×一七・一。綴葉装。銀欄模様織入緞子表紙に金紙書題簽「さくらも 一(二)下」付。見返しは布目金紙。内題「狭衣巻第一之下」「狭衣巻第二之下」。本文金泥下絵入斐紙料紙、每半葉十行書き。挿絵は一之下に見開き一図・片面五図、二之下に片面六図あり、上下に金砂子散らしにて雲霞を表現、また人物の顔や衣服の模様に至るまで精密な筆彩色が施された美しい絵本。保存も良い。本文の割当てを見るに元は八帖の完本であったと思われる。散逸が惜しまれる。



50



49

51 蝙蝠羽織図幅

一幅五、五〇〇、〇〇〇円

〔寛永正保頃〕写 紙本彩色 無款

蝙蝠羽織とは江戸初期ごろ若衆の間で流行した、丈が短く、袖が長く広い羽織。近世の代表的な風俗考証本『骨董集』（山東京伝著・喜多武清縮図、文化十一年刊）上編上之巻に用例として掲げられている「蝙蝠羽織圖」は、まさに本軸を原図としたものであろう。函裏に「杏花園」「南畝圖書」の朱印があることも「杏花園藏」との記載を裏付ける。尚、附載文には「寛永正保頃の古画にやあらん」とあり、その頃の製作か。この図は『骨董集』掲載以後、『守貞謾稿』等の風俗論集や『時代かがみ』（周延画）などの錦絵ほか多くの作品に派生していったことが明らかであり、時代風俗考証における第一級の資料としてその価値は極めて高いといえよう。

本紙の大きさは八一・三×四〇・四糎。着物の紋様部分に少し擦れや金泥の褪色があるほかは作製当時の色をほぼそのまま残し、強い輪郭線と丁寧な描かれた人物の顔とが相まって、古雅な趣を有する逸品である。



51

52 〔盆踊り図巻〕

一巻六〇〇、〇〇〇円

江戸前中期写 絹本着色 師宣風画 無款

紙高一三糎、長さ一七九糎。近代の卷子装。

盆踊りを踊る男女十三名の踊り手と、太鼓・三味線・笛・鼓を持つ奏者六名に扇子を手にたたずむ一名（歌い手か）を描いている。図はのびやかで生き生きと、かつ着物の絵柄等細部も素朴な彩色ながら比較的細かく描かれている。菱川師宣の画風に似るも本人によるものではないと思われる。但し『月次のあそび』（初版延宝八、再版元禄四年）内、盆踊り図の一部に似通う部分も見受けられ注目される。絵具の一部剥落、少虫食補修、全体に亘り薄い汚れある点が惜しまれる。巻頭以前、また巻末に続く絵が存在していたことも否定できず、全容は不明であるが、古雅でかつリズムミカルな趣があり見る者を楽しませる。



52

53 蝦夷国風図絵

一巻 八八〇、〇〇〇円

江戸後期写 紙本淡彩色

紙高二八糎。黄土色表紙(傷み補修有)付、外題なし。「蝦夷国風図絵」と題し「蝦夷随筆曰女は髪を切廻して禿のごとく」の序文、続いて「松前の城え蝦夷人年始御礼乃事」とし役人二人と共に年始あいさつに向かうアイヌ男女七人の絵、および詞書「毎年正月年始の御祝儀に」(白石先生著蝦夷志三云)の朱書入)、続いて薪を背負う女性二人の絵(「老女の方ハ日本の古着を着して」)、小熊を抱く女性とその子供の絵(「此抱居る熊の子は」)、「蝦夷志三云」の朱書入)、やすを投げる童子の絵(「蝦夷人の子ともあつまり」)、昆布取りの絵(「女はあつしを着」)、タコおよび魚を取る図(「漁夫やすを以て」)、「此漁夫は」)、「蝦夷志三云」の朱書入)、おとせい狩りの絵(「此水主は」)、「此漁夫は」)、親子三人船に乗る絵(「漁夫夫婦あつしを着」)よりなる。奥書はない。

蝦夷国風図絵と題された伝本は数多く、それらにあつて本書にない絵并詞書がいくつか見受けられるも、人物の動きや姿、表情は豊かに描かれ、丁寧な淡彩色が施された図巻である。

54 赤穂義士絵巻

三巻 八八〇、〇〇〇円

江戸後期写 筆彩色上写

紙高二九・四糎。近代の改装、外題「赤穂義士傳 天(地・人)」、函付。内題なし。天巻には「内匠頭御礼廻り之所 御老中屋鋪」より松の廊下における刃傷事件、内匠頭切腹、赤穂城明け渡し、家臣各々のその後まで、地巻には「上野介屋鋪江夜討せんと支度之所」より十二月十四日の討入、浅野家墓前の場面まで、人巻には上野介の首が幡松院へ送られる場面より浪士切腹、泉岳寺庶民参詣の図までを収める。

所々に画中詞や、年齢・石高・役職名を付した人名が配され、絵の理解を深めるものとなっている。奥書及び絵師名の記載はないが、人物が表情豊かに描かれ、装束や諸道具などにも丁寧な彩色を施した上写本である。

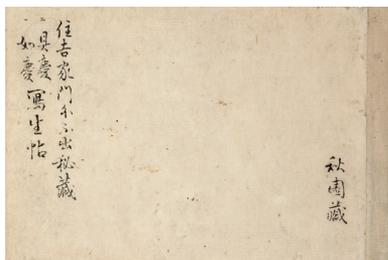


55 具慶如慶 写生帖

一冊 四五〇、〇〇〇円

書名の他表紙に「住吉家門外不出秘藏」「秋園藏」の墨書有  
筆彩色入粉本

住吉家にあつた如慶・具慶の粉本を集めて一冊にまとめたもの。旧藏者秋園はあるいは橋本雅邦か。本の大きさ一五・五×二一・五糎、横本。後補包み表紙。紙数約六十六枚。草花の絵が多い。



55

56 吉原恋の道引

一冊 二、八〇〇、〇〇〇円

菱川師宣画 延宝六（1678）年刊 高木文庫・横山重旧蔵  
美濃判、青表紙付、題簽無し。序跋各半丁とも全二十一丁。

本書は『近世文学資料類従』（勉誠社）、『近世日本風俗絵本集成』（臨川書店）に影印された底本で署名はないが絵師は師宣と確定されている。師宣三十歳前後の作品で、人物が活き活きと描かれ、彼の最高傑作の一つに数えられる。僅かな手擦れがあり薄い裏打を施すが保存の良い上本。「高木家蔵」（高木利太）、「よこ山」「アカキ」（横山重）の朱印有。

57 新摸名山勝概図

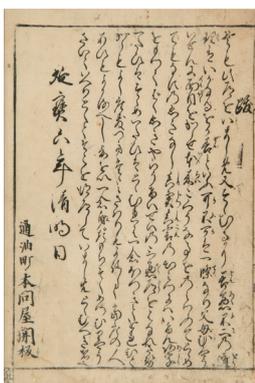
三冊 一一〇、〇〇〇円

鈴木芙蓉画 享和元（1801）年刊 円屋源八郎・須原屋茂兵衛版  
唐土名山図会 原装上本

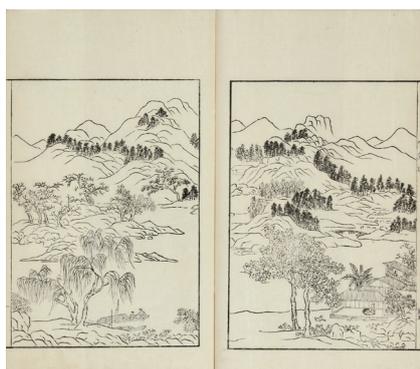
美濃判。元の空押模様入薄水色表紙に紅色元題簽「新摸名山勝概圖 上巻（中巻・下巻）」、および藍刷元見返し完備。紅刷序半丁入。刷・保存共良い上本。



56



57



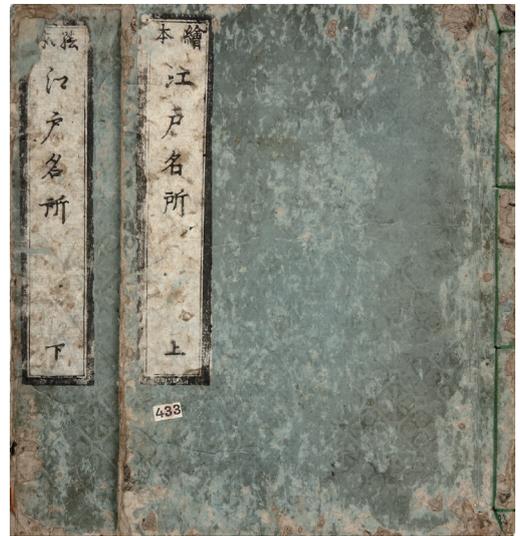
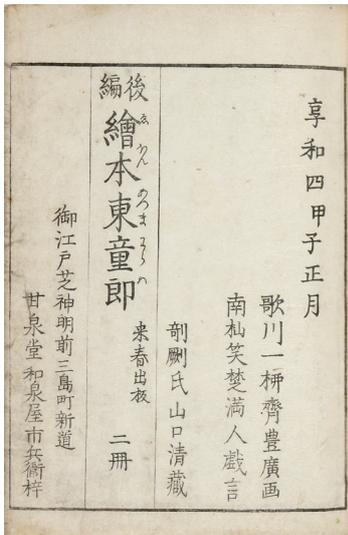
58 絵本 江戸名所

二冊 一、六〇〇、〇〇〇円

南仙笑楚満人戯言 歌川豊広画 享和四（1804）年正月刊  
和泉屋市兵衛梓 彩色刷 取合せ

各月毎に江戸周辺の神社仏閣等への参詣人風景をいきいきと描いた風俗絵本。半紙本。元の蜀江錦紋空押入の翡翠色表紙（擦れ有）に子持梓の元題簽「繪／本 江戸名所 上（下）」付。山陽道による序文一丁半に続き、見開きで上巻に正月恵方参（山王権現）・二月初午参（王子稲荷）・三月木母寺参り（梅若山王）・四月釈迦参（三縁山）・五月目黒参（不動明王）・六月天王参（祇園会）、下巻には軒先の情景半丁に続き、七月廿六夜（高輪の茶屋）・八月八幡参（山中の二軒茶屋）・九月生姜市（芝神明）・十月大師参（上野両大師）・霜月御講参（東西本願寺）・極月年の市（浅草金龍山）をそれぞれ収め、楚満人による戯文（上巻八丁、下巻七丁半）がこれに続く。下巻裏見返しに「享和四甲子正月／歌川一柳齊豊廣画／南仙笑楚満人戯言／割闕氏山口清蔵／後／編 絵本東童郎 来春出版 二冊／御江戸芝神明前三島町新道／甘泉堂和泉屋市兵衛梓」の奥付半丁有。本文下部に少し手擦れあるも保存はほほ良。上下取合せ本なるも刷や保存は両冊ともほほ同等で、色も良く残っており美しい。本書には、奥付にある近刊予告より『絵本東わらは』と題され伝えられてきたもの、又同内容なるも序の干支と刊記の年月を欠く改題本『絵本東物詣』のあることが知られるが、共に近年市場に出ること極稀で、伝本は少ない。

(刊記)



(表紙)



(本文)

59  
ひとり発句 下

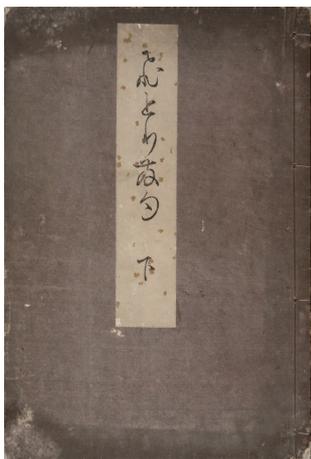
一冊 一八〇、〇〇〇円

60  
風流五節句 三月

一組 三八〇、〇〇〇円

惠厚尼亀台著 紹真・北斎・江漢・玄對等画  
〔文化五（1808）年頃〕刊 薄墨刷絵入

元の浅紫色表紙中央に金箔散らし料紙の元題簽「ひとり発句 下」付。主に見開きの左半丁に発句を、右半丁に薄墨刷入の画を配す。二十三図のうち蕙斎・紹真・葛飾北斎・司馬江漢・渡辺玄對の画各々一図入（落款に朱の刷印有）。発句部分は墨継ぎを意識し濃淡を刷り分けるなど風雅な趣のある上刷本である。刊記はないが文化五年の序文のあることが知られ、その頃の刊行と思われる。最終丁末に「彫工 山口七兵衛／刷工 和泉屋五郎兵衛」と刷る。「林忠正所蔵印」（林忠正偽印か）、「琴涯図書」（竹内琴涯）の旧蔵印有。小口に薄い水染みあるも保存ほば良い上本。上巻の不在が惜まれる。



59

後素亭豊国画 文政頃刊 両国大黒屋版 三枚続  
綴穴直し・僅か裁ち有



60

61 江戸八景 両国ノ夕照

五渡亭国貞画 文政頃刊 山本久兵衛版 三枚続  
 僅かな裁ち有。保存、刷り、色目極く良い。

一組 九五〇、〇〇〇円

62 江戸八景 上野ノ晩鐘

五渡亭国貞画 文政頃刊 山本久兵衛版 三枚続  
 僅かな裁ち有。保存、刷り、色目極く良い。

一組 八五〇、〇〇〇円

63 江戸八景 三廻ノ落雁

五渡亭国貞画 文政頃刊 山本久兵衛版 三枚続  
 僅かな裁ち有。保存、刷り、色目極く良い。

一組 八〇〇、〇〇〇円

64 江戸八景 吉原ノ夜雨

五渡亭国貞画 文政頃刊 山本久兵衛版 三枚続  
 僅かな裁ち有。保存、刷り、色目極く良い。

一組 五八〇、〇〇〇円



62

63

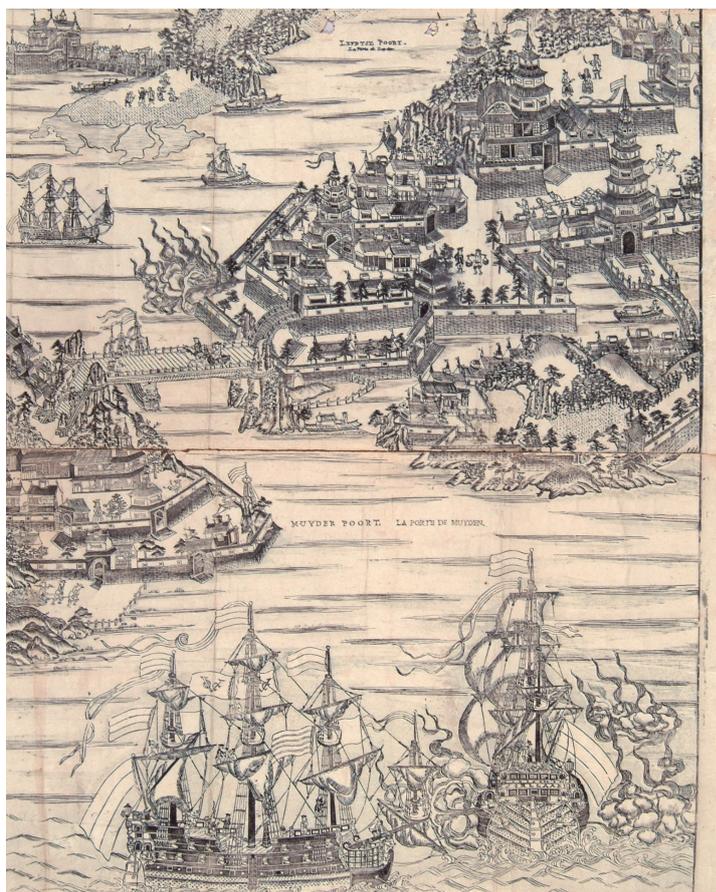


64

65 ライデン港図・ムイデン港図 一組 一、二〇〇、〇〇〇円

初期長崎版画 安永頃刊〔富嶋屋版〕灰色合羽刷 鳥瞰図 二枚続  
 「LEYDSE POORT」「MUYDER POORT」。

図の大きさ各三四×五二・五糎。天地に少し裁ちがあり、ライデン港図は左右の余白にも裁ち有。僅か虫食有。  
 安永期の富嶋屋版の傑作といわれる。

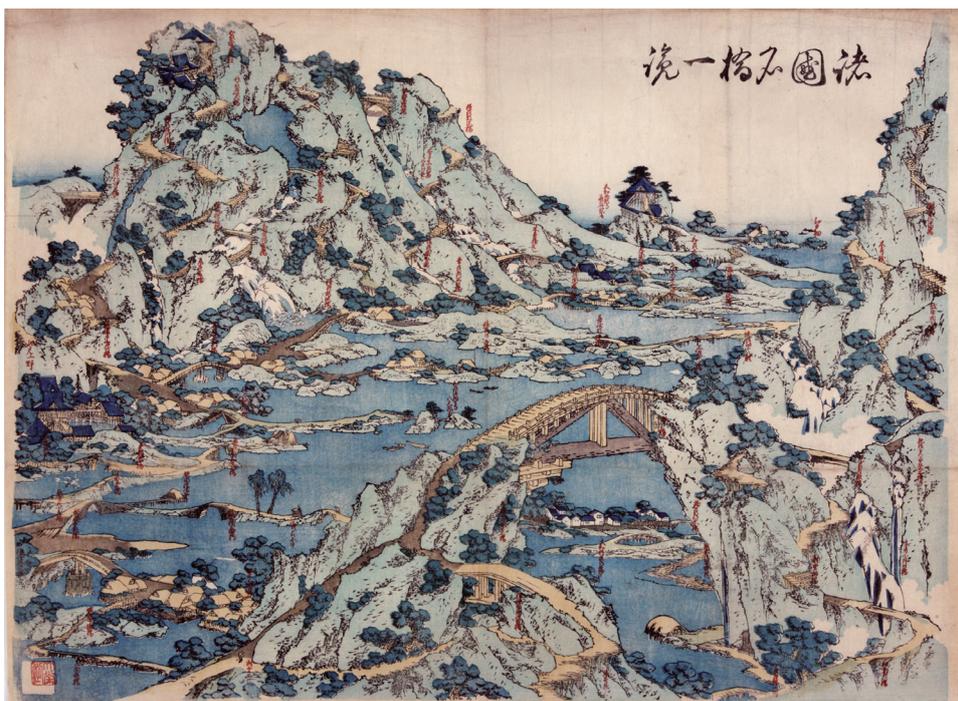


65

66 諸国名橋一覽 一冊 四五〇、〇〇〇円

〔葛飾北斎画〕江戸後期刊 彩色刷

大きさ四二・七×五八・〇糎。葛飾北斎『百橋一覽図』の後刷。序を削り改題「諸国名橋一覽」を刻し、図中各橋に橋名を新たに朱刷で加えている。図の左下角に「大口（秋か）堂」の朱印有。保存ほほ良い。



66

67 雛形 西川夕紅葉

三冊 四八〇、〇〇〇円

享保三（1718）年正月刊 小林喜右衛門・西村理右衛門版  
祐信風雛形絵入

美濃判。元の藍色表紙に元題簽「雛／形 西川夕紅葉 上（中・下）」完備。巻頭に「四季染模様目録」と題する一條浄福寺前版木師治右衛門の序一丁有。本文上・中巻に振袖六十八図、下巻に小袖二十八図を収める（所々古い色差し有）。題に「西川」の文字あるも絵師名の明記はない。末に「享保三戊戌年／正月吉日 二条通寺町角／小林喜右衛門／御幸町通御池上ル町／西村理右衛門」の刊記有。上巻のみ上部に丁寧な虫食補修跡がみられるも、刷・保存共ほほ良い。伝本をあまり聞かない。僅かな裁ち有。保存、刷り、色目極く良い。

67

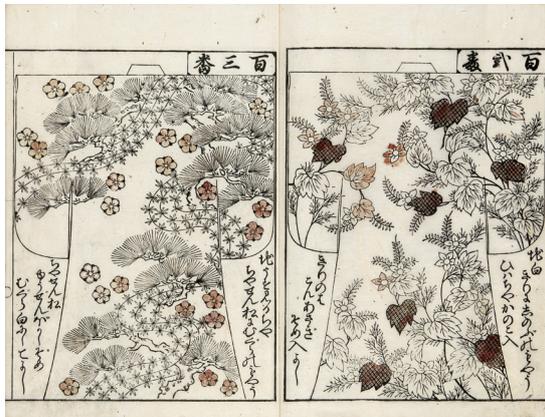


68 西河ひな形 卷四

一冊 八五、〇〇〇円

五巻の内 西川祐信画（享保三（1718）年）刊  
〔八文字屋八左衛門〕版 稀 黒川真道旧蔵

半紙本。元の金箔散らし入り梅茶色表紙（裏打補修、後補見返し紙付）中央に元題簽「西河ひな形 心の粹な物好のもやう 卷」（巻数部分破れ有）付。手彩色入りの扉絵「物好」（半丁）および口絵（見開き二丁）、本文（六十三番）より「八十三番」までの小袖図（十丁半よりなる。丁付「四ノ一（十二）」）。少虫食があり裏打補修済み。一丁に墨悪戯書き有。完本は五冊、伝本稀。本書はその内の第四冊にあたる。



68



26



72 天平時代紫紙金字經断簡 一枚 二、六〇〇、〇〇〇円

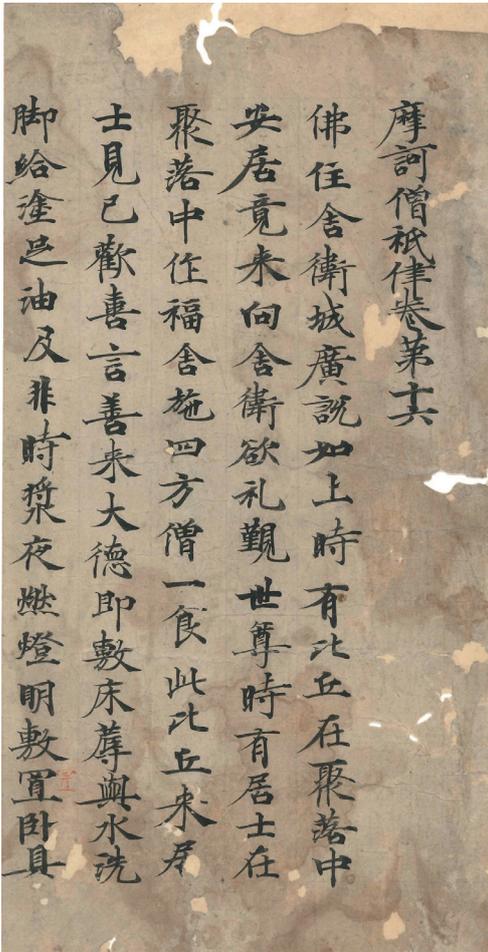
三行 聖廟尊輪の極札 紙背に「金光明最勝王經切」「河内切」と墨書  
紙高二六・〇、界高一九・五糎



善男子若有善男子善女人聞是賢王大光  
照如來名号者於菩薩地得不退轉至大涅槃  
若有女人聞是佛名者臨命終時得見彼

73 摩訶僧祇律卷第十六断簡 一枚 六五〇、〇〇〇円

天平經 卷頭六行 少虫食傷み有  
紙高二三・七、界高一九・五糎。本断簡は法隆寺に伝わった天平二十一年書  
写の同経断簡の卷頭であろう。



摩訶僧祇律卷第十六  
佛住舍衛城廣說如上時有比丘在聚落中  
安居竟未向舍衛欲礼觀世尊時有居士在  
聚落中住福舍施四方僧一食此比丘未見  
士見已歡喜言善未大德即敷床蓐與水洗  
脚給塗足油及非時漿夜燃燈明敷置卧具

74 天平經断簡 一枚 二五〇、〇〇〇円

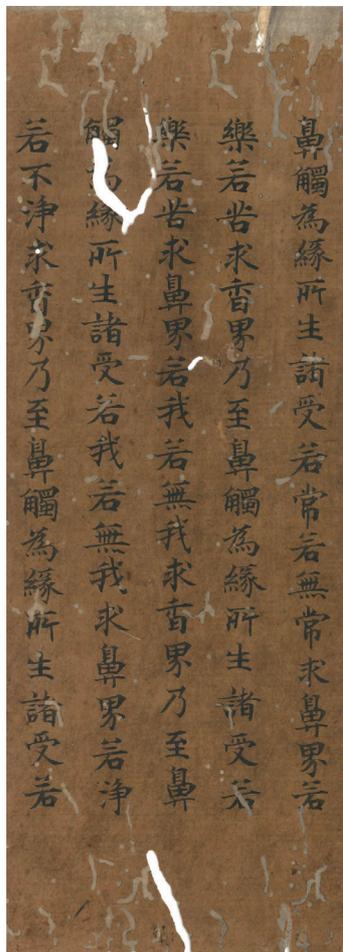
三行 前掲「摩訶僧祇律」の僚卷  
紙高、界高、紙質、筆跡が一致する。



如是適身飲食且可小停消息四大然後當  
往奉觀世尊如是念已晝在阿練若處住暮  
則還舍檀越見之如前歡喜如是乃至三日

75 安倍小水麿經断簡 一枚 三〇〇、〇〇〇円

貞觀二三(871)年写 五行 虫食補修有  
紙高二七・四、界高二〇・四糎。料紙褐麻紙。



鼻觸為緣所生諸受若常若無常求鼻界若  
樂若苦求香界乃至鼻觸為緣所生諸受若  
樂若苦求鼻界若我若無我求香界乃至鼻  
觸為緣所生諸受若我若無我求鼻界若淨  
若不淨求香界乃至鼻觸為緣所生諸受若

76 紺紙金字經斷簡

五行 伝小野道風筆

銀界、紙高二六・五、界高二一・五糎。



一枚 八五〇、〇〇〇円

78 平安時代縹紙裝飾經斷簡

五行 金界 金泥鳥草花下繪・金箔散らし料紙

紙高二四・四、界高一九・〇糎。

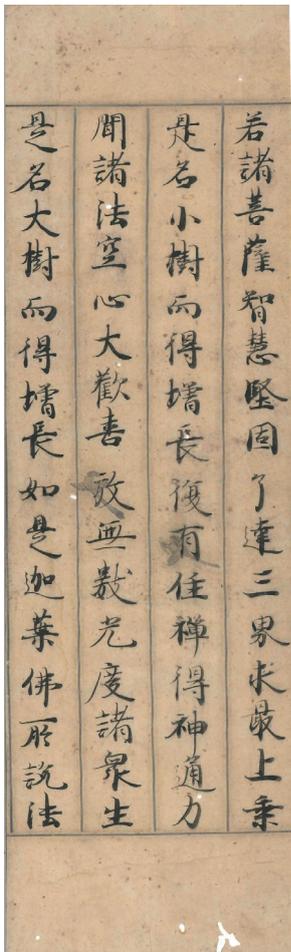


一枚 一、六〇〇、〇〇〇円

77 平安時代写經斷簡

伝行成筆 四行 銀界 銀泥鳥下繪有

紙高二四・八、界高一九・〇糎。

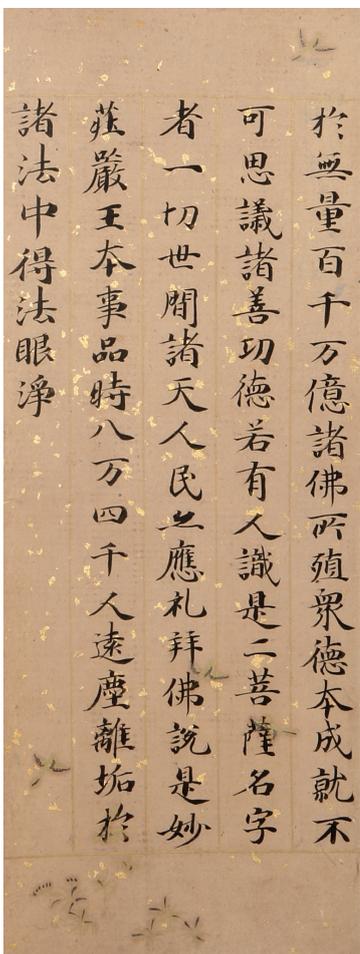


一枚 一八〇、〇〇〇円

79 平安時代裝飾写經斷簡

五行 金界 金箔散らし 鳥草下繪料紙

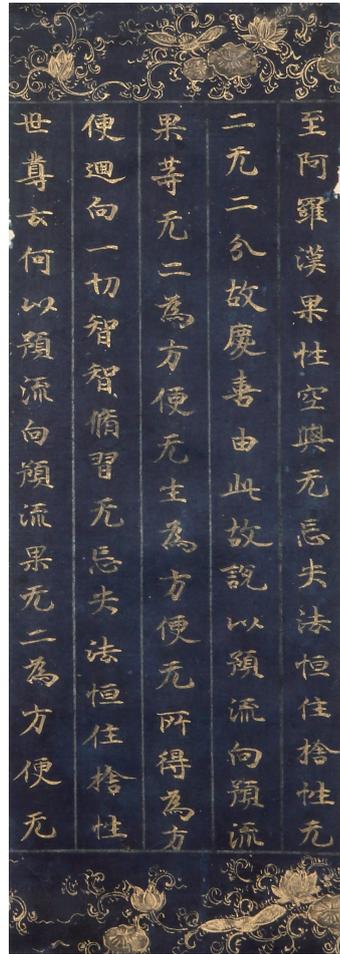
紙高二四・二、界高一九・二糎。



一枚 六八〇、〇〇〇円

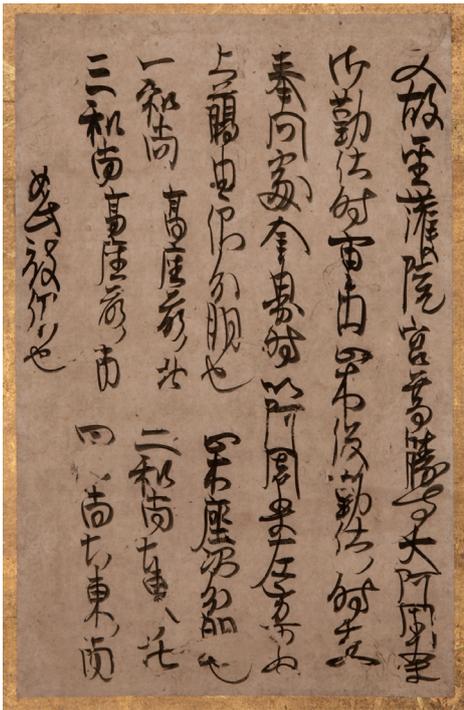
80 伝後伏見宮筆紺紙金字経断簡 一枚 六五〇、〇〇〇円

五行 銀界 天地金泥裝飾  
紙高二五・五、界高二〇・〇糎。



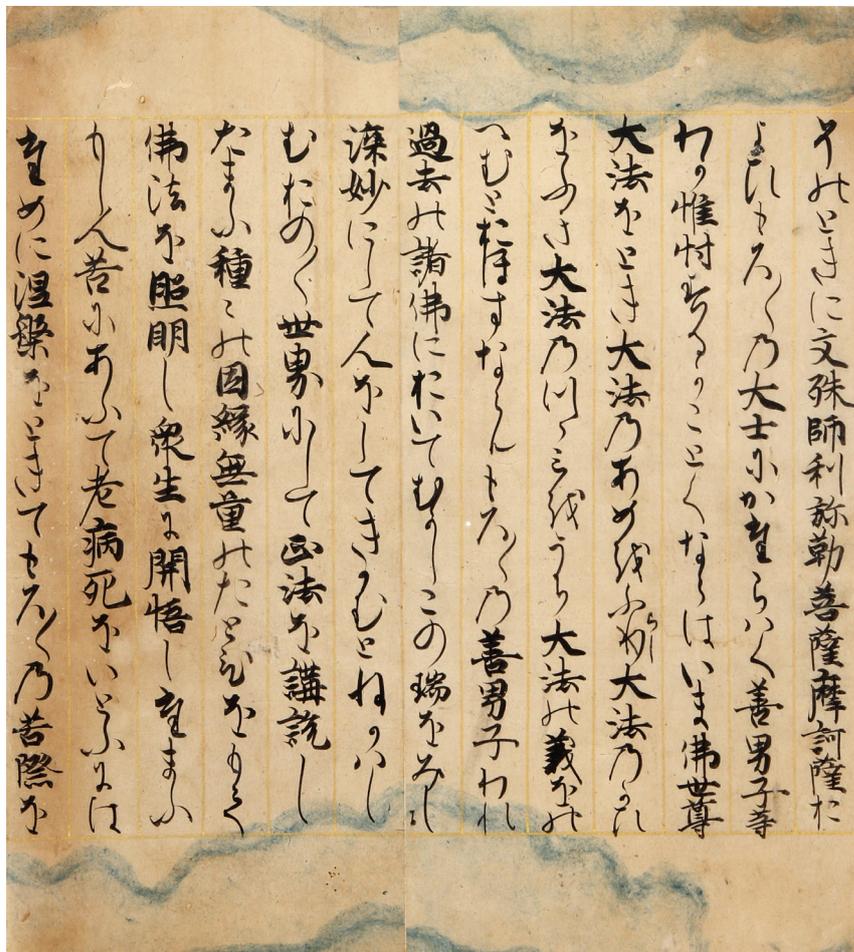
81 八尾切 一幅 二二〇、〇〇〇円

鎌倉時代写 伝親鸞筆 仏書断簡 七行  
料紙の大きき一七・五×一一・一糎。元は冊子本であつたと云う。漢字片仮名交じり文。二重箱入、内箱の箱書に「加賀前田家伝来 森川如春庵旧蔵 蓬翁（花押）」とあり。この「八尾切」は『藻塩草』『翰墨城』『見ぬ世の友』等諸手鑑にも押されている。



82 仮名法華経断簡 一枚 三八〇、〇〇〇円

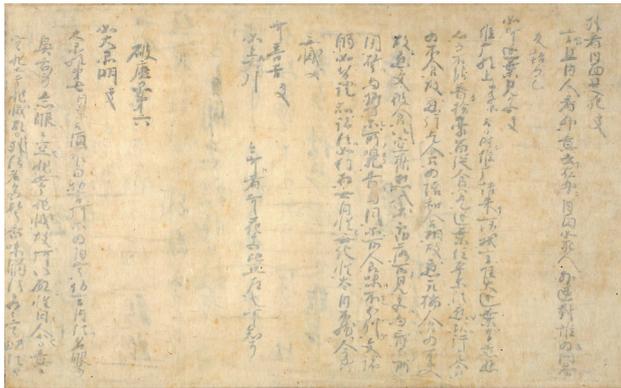
伝後京極良経筆 打曇料紙 金界 十三行  
紙高二六・五、界高二〇・〇糎。



83 道悟忠俊書状

八月二十七日付 紙背文書有

紙面二八・三×四五・四糶、十二行。忠俊字は道悟、高野山大伝法院学頭。出自及び生没年未詳なるも鎌倉時代建曆前後の人と伝わる。なお、紙背には『百論疏』巻中の一部（「破情品第五」尾より「破塵品第六」首）の註と思われる十八行が残る。



(紙背)

84 妙法蓮華經

八卷 三、六〇〇、〇〇〇円

南北朝頃刊 豪華裝飾經 金界 外題金紙に「大乘妙典一（了八）」「空照」紙高二八・五、界高二二糶、料紙白楮紙。上下欄外に金銀で箔・野毛・砂子を敷き詰め、紺紙の表紙にも金銀で裝飾を施し、見返しは金紙に七宝繫ぎ紋を空押しし、水晶軸を備えた極めて豪華な装幀である。末に「寿福院空照」の墨筆がある。保存良。

(第一卷初)



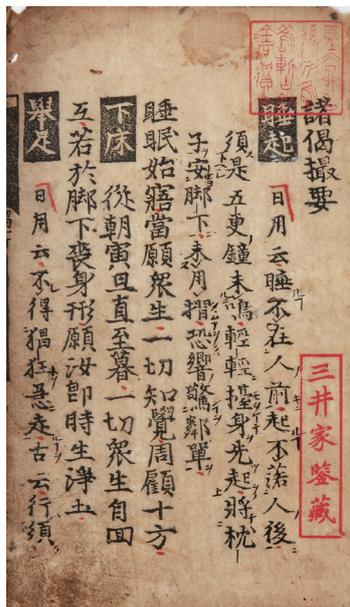
(第八卷末)

諸偈撮要 並附錄

一冊二、八〇〇、〇〇〇円

〔室町初期〕刊 五山版 三井家旧蔵

二〇・三×二・七種のやや小型本。改装古い栗皮表紙付、外題なし。本文無界、每半葉八行。柱題「偈一（〜二十）丁」、「附録一（〜廿四）丁」。附録の末に「此版留在野州足利行道山淨因庵／ 應永十一年甲申小春日誌」の年記有。川瀬一馬『五山版の研究』に「永十一年版として載る図書寮文庫蔵本」と同文で、比するに全くの別版である。本書は三井高堅の旧蔵本で前掲『五山版の研究』に掲載あり、「室町初期頃の所刻であらう」とする。他に伝本を聞かない。室町初期に二種もの『諸偈撮要』が出版されたことは注目に値する。



永源寂室和尚語

二冊三、二〇〇、〇〇〇円

〔室町時代〕刊 五山版 三井家旧蔵

本の大きさ二八×一六・四種。改装藍色表紙（補修有）、外題なし。本文虫食補修済み、一部欄外に水染み有。臨濟宗永源寺派大本山瑞石山永源寺開山勅諭円応禪師寂室和尚の語録。上巻に偈頌を、下巻に小仏事・説・書簡・法語・遺誥及遺偈を収める。巻末に永和三（1377）年の性均による刊語があるが、川瀬一馬著『五山版の研究』によれば本書は覆刻本のひとつで、同書所載の大東急記念文庫本と同版のもの。荒れた版木をそのまま使用した箇所ならびに補刻と思われる箇所が散見される。尚、一部ノド付近に次の丁もしくは前の丁の匡郭及び本文の一行が刷り出されており、木材の節約の為か版木一面に複数枚分が刻されていたことが推察され本邦出版史を知る参考となる。本文の上部欄外及び行間等に数人の手になる書入がある。「聴水」「聴水壬戌以後所集旧槧古鈔」「三井家」「三井家」（三井高堅）の旧蔵朱印、および「彦根江國寺」の墨書、その下に古い黒印有。



ABAJ 国際稀観本フェア2020 《古書展示即売会・入場無料》

- 会 期：2020年 3月20日(金・祝) 12時～19時  
21日(土) 10時～18時  
22日(日) 10時～16時
- 会 場：東京交通会館展示会場12階 カトレアサロンA・B 弊社出品Booth No.12  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1 Tel:03-3216-4503(会期中のみ通話可能)



※尚、会場より弊社へお越しの際はお乗換えのない地下鉄三田線のご利用が便利です。  
(会場より日比谷駅まで徒歩約5分、日比谷駅より神保町駅まで乗車約5分)



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目7番地  
TEL : 03-3292-0071(代) / FAX: 03-3292-0095

7, KANDA JIMBOCHO 1-CHOME, CHIYODA-KU TOKYO, JAPAN

E-mail : mail@isseido-books.co.jp

Twitter (@Isseidobooks)

オンラインショップ : <https://www.isseido-books.co.jp/shop/>



営業時間：午前10時～午後6時30分（祝日 午前10時30分～午後6時） / 定休日：毎日曜  
地下鉄：半蔵門線、都営新宿線・三田線、神保町駅(出口A7・A5)より徒歩約1分  
JR：御茶ノ水駅・水道橋駅より徒歩約10分



合名 一誠堂書店  
会社

